緑丘トピックス

令和３年度
９月３０日(金)発行

Date Midorigaoka High School 北海道伊達緑丘高等学校 TEL/FAX 0142-24-3021

後期が始まります

校長　須　藤　克　志

今年度も半年が過ぎました。９月には北海道に緊急事態宣言が発出され、予定されていた学校の活動が延期や自粛となりました。いったいいつになれば・・・と考えていても始まりません。まだ気が抜けない日々も続きますが、後期は気持ちを新たにして、今できる事、やらなければならない事に全力で取り組んで欲しいと思います。特に３年生は進路活動がんばれ！

さて今年の夏はオリンピック・パラリンピックが世界のコロナ禍の中開催されました。連日のテレビでの観戦、本当に興奮と感動に溢れていましたね。その中でも、私は今まであまり興味がなかったパラリンピックに熱中しました。特に車椅子ラグビーと競泳はテレビに釘付けになって応援していました。そこには、障害があるないは関係なく、ひとりのアスリートとして勝利に向かう姿があり、今まで障害を持った選手をかわいそうだという目で見ていた自分を本当に恥じました。パラリンピックの意義は、様々な障がいのあるアスリートたちが、個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会を与えることにあるそうです。

「多様性」という言葉に表されるように、世の中には年齢、性別、障害、国籍、文化などそれぞれが持つ様々な価値観が存在します。皆持って産まれた特性の中で、創意工夫を凝らしながら、一生懸命生きています。その多様性を認め、差別することなくお互いを認め合うことから、学ぶことはたくさんあります。自分の価値観に縛られずに、謙虚に学ぶ姿勢をいつまでも持ち続けて欲しいと願っています。

そう言えば、本校では今年から男女混合名簿が始まりました。また、体育大会にオリンピック競技の「ボッチャ」が取り入れられました。そこにどの様なメッセージが込められているかを感じて欲しいと思います。

コロナウイルス感染拡大防止 ＰＣＲ検体回収作業！

９月１日(水)保健所の指導の下、本校では教職員･生徒全員ＰＣＲ検査を行いました。「検体」を車で持ってきてもらう「ドライブスルー方式」で回収しました。苦労の甲斐あって、全員「陰性」でした。まだまだコロナの影響は続きますが、みなさん頑張りましょう。

クリエイティブワーカーミーティング

本校の卒業生で、現在彫刻家として活躍している渡辺元佳さんを講師に迎えて、現在のお仕事の様子や、芸術に携わった経緯などをお話ししてもらいました。普段なかなか接する機会のない最先端の芸術家の話を聞くことにより、生徒諸君はたいへん刺激を受けたようです。

彫刻家の渡辺さんアドバイス

卒業生が講師 進路描く

伊達

全国で活躍する同校の卒業生を講師に招いた「クリエーティブワーカーミーティング」を初めて開いた。講師は彫刻家の渡辺元佳さん(39)。生徒たちが渡辺さんの話に耳を傾けて、生き方や進路などについて考えた。（奥村憲史）

緑丘高

伊達緑丘高校（須藤克志校長、214人）は24日、同校は2023年（令和5年）3月の閉校を前に、「グリーンプロジェクト」と銘打って各種地域貢献活動などを展開。今回は「伝承」をテーマとした「職業人講話」となった。

渡辺さんは伊達市出身で、00年（平成12年）に同校を卒業した。東京を拠点に活動し、主に動物をモチーフとした彫刻作品を作る。19年の伊達150年記念事業などを担当した。

この日はオンライン形式で東京の渡辺さんとつないで実施。渡辺さんは幼少期から高校時代と振り返り、現在や作品について説明。高校時代、テレビ番組を見ている時に「好きな物を作り、飯を食えたら最高。そうするためにはどうしたらいいのか」と考えたことを紹介した。

その上で「何をしている時が一番楽しいのか。それを見つけることが大切。もし見つけることが難しくても、自分が一番リラックスできる時や場所は何かを考えて。自分の物差しを大切にしてほしい」と未来ある後輩たちにアドバイスを送っていた。

渡辺さんを講師にオンラインで開催したクリエーティブミーティング

稀府小学校
学習ボランティア

夏休みの 7 月 31 日(土)に稀府小学校で本校生徒が「先生」となって、小学生に学習会を開きました。生徒も貴重な体験をさせていただきました。

先生は緑丘高生

稀府小訪問、学習手助け

伊達

伊達緑丘高校（須藤克志校長）の3年生9人が26日、伊達市内の同じ稀府地区にある稀府小学校で児童に勉強のアドバイスや学習プリントの採点をする学習支援活動を展開し、交流を深めた。

2023年（令和5年）3月に閉校する伊達緑丘高校は、生徒が主体となり取り組む地域貢献活動「グリーンプロジェクト」に力を入れている。学習支援活動もその一環で、生徒が稀府小側と連絡を取りながら準備を進めてきた。

4～6年生の希望児童計20人が参加。2教室に分かれて算数では、分数の計算や小数点のある数の計算。国語では漢字の書き取りなどをした。生徒たちは、優しく丁寧に問題の解説や丸付けに取り組んでいた。

企画した内藤美那海さん(17)は「人に教えたり、年齢の離れた子と接する機会はあまりないので、とても良い経験になりました。できるだけ分かりやすい言葉を心掛けました」と笑顔。世代が違う人と接することでコミュニケーション能力も身に付けていた。

（奥村憲史）

児童に優しく勉強を教える緑丘高生

図書局
わかすぎ学園図書寄贈

夏休み直前の 7 月 26 日(月)、本校図書局の生徒が、室蘭市の児童養護施設に、学校祭バザーの売上金でお菓子を購入しプレゼントしました。たいへん喜んでいただきました。

思い詰まった菓子贈る

室蘭

伊達緑丘高がわかすぎ学園に

ラッピングした菓子の箱を手渡す生徒たち

伊達市の伊達緑丘高校（須藤克志校長、214人）が21日、室蘭市母恋南町の児童養護施設わかすぎ学園（伊藤裕司総合施設長）に、お菓子を寄贈した。

同校は閉校に向けた集大成として、「感謝」「創造」「伝承」「総括」をテーマに、生徒主体の校内活動、グリーンプロジェクトを実施している。今回は図書局の生徒が中心となり、学校祭で行ったバザー、古本市と雑誌の付録市で得た益金を同学園に寄付することにし、売上金約5千円でお菓子を購入し、プレゼントした。

この日は図書局の2年、船岡ほの香さん、三浦愛加さん、田中星名さん、中島梨花さんの4人が、須藤校長とともに同学園を訪問。あめやせんべい、クッキー、ドーナツなど約10種類の菓子を四つの箱にラッピングし、伊藤総合施設長に手渡した。

船岡さんは「暑い中、熱中症に気を付けながらお菓子を食べて楽しんでほしい。来年もまた寄贈したい」と意欲を見せていた。

伊藤総合施設長は「いろんな種類を用意してくれてうれしい。応援してくれるその気持ちがありがたい」と感謝していた。

（佐々木愛梨）

伊達緑丘・伊達開来
初めての連合チーム

今年、伊達緑丘高校と伊達高校統合し、新設の「伊達開来高校」がスタートしました。本校は新入生が入学せず、「２年生・３年生」での一年となります。

部活動も、３年生が引退すると、２年生のみの活動となり単独チームで出場できなくなる部活動がほとんどとなります。

新聞記事にある野球部ですが、統合して部活動初の連合チームとして秋季新人戦に出場し、初勝利をあげました。

チーム唯一の緑丘野球部、中村関汰君(２年)も活躍をし、新設校を念願の初勝利に導きました。

秋季高校野球室蘭支部予選開幕

伊達連合 雪辱の猛攻

【苫小牧】第74回秋季北海道高校野球大会室蘭支部予選は11日、とましんスタジアムで開幕した。初日はAブロック1回戦2試合が行われ、伊達開来・伊達緑丘の連合チームが、浦河と対戦し10－7で勝利した。室東翔は駒大苫にコールドで敗れ、2回戦に進めなかった。きょう12日は、Aブロック1回戦で室栄と室清水が対戦する。（野田篤志）

【伊達開来・伊達緑丘－浦河】二回に三塁打を放つ伊達開来・伊達緑丘の中村＝とましんスタジアム

▷Aブロック1回戦

伊開緑	0	0	10	0	0	0	0	0	0		10
浦河	0	0	5	1	0	0	0	1	0		7

室東翔	0	0	0	0	0		0
駒大苫	1	7	5	1	×		14

（五回コールドゲーム）

【伊開緑】		打	安	点	振	球
⑧	結城	3	0	1	0	2
④	橋本	2	2	1	0	1
①	洲崎	4	1	1	0	1
③	佐藤稜	4	1	1	1	2
⑥	中村	5	2	1	1	1
⑨	田仲	5	2	1	1	0
⑤	郡司	3	1	2	0	1
②	本井	3	0	0	0	2
⑦	室橋	3	0	0	0	2

犠盗失併残
6 1 2 1 11 32 9 8 3 12

【浦河】		打	安	点	振	球
④	吉津	5	1	1	0	0
⑥	松田晴	5	3	1	0	0
⑤1	鳥井	4	1	0	0	1
⑧	杉本	5	3	0	0	0
②	山岸	4	0	0	0	0
③5	長尾	4	1	0	1	0
①3	伊藤	3	1	0	1	1
⑨	松田志	2	0	0	0	0
⑦	竹内	4	3	1	0	0

犠盗失併残
2 0 4 2 7 36 13 3 2 2

▷三塁打　中村（伊）
▷二塁打　吉津、鳥井（浦）

【室東翔】		打	安	点	振	球
②	田代	2	0	0	2	0
④	新屋	2	0	0	1	0
⑥	佐藤	2	0	0	2	0
①	梶浦	2	0	0	1	0
⑤	吉田	2	1	0	1	0
⑧	桐	1	0	0	1	0
H	堀井	1	0	0	1	0
③	古川	2	0	0	1	0
⑦	浅山	1	0	0	1	0
⑨	四戸	1	0	0	1	0

犠盗失併残
0 0 3 0 1 16 1 0 12 0

【駒大苫】		打	安	点	振	球
⑥	小田	3	1	0	1	1
⑦	白井	2	1	1	0	1
7	毛利	2	2	0	0	0
⑨	成田	3	2	2	0	1
⑤	橋本	4	1	3	0	0
②	田中	3	1	1	0	0
④	小出	2	1	1	1	1
4	幅岸	0	0	0	0	0
③	瀬野	1	0	0	0	1
H3	野々村	0	0	0	0	1
1	大森	0	0	0	0	0
⑧	小林	3	1	0	0	0
8	大石	0	0	0	0	0
①	伊藤	0	0	0	0	0
1	中西	2	0	1	0	0

犠盗失併残
1 5 0 0 4 25 10 9 2 6

▷二塁打　白井、橋本、小林、毛利、成田（駒）

◇伊達開来・伊達緑丘10－7浦河

【評】伊達開来・伊達緑丘が逃げ切った。序盤から好機をつくり主導権を握ると、三回1死二、三塁で洲崎の適時打で先制し、四球と安打を絡め一挙10点をリードした。浦河に6点を返されて迎えた八回、さらに1点を奪われたが、先発洲崎が粘りを見せ108球で完投した。（野田篤志）

念願の新設校1勝

⑪…伊達開来は伊達緑丘との連合チームで、新設校1勝を挙げた。田口裕太監督は「試合運びはうまくいかなかったが、まずは勝てて良かった」と胸をなで下ろした。

夏の大会で逆転負けした浦河が相手。初回、二回と得点圏に走者を進め好機をつくると、三回に打者15人の猛攻で10点を奪った。

唯一の部員が打線に火を付けた。伊達緑丘からただ一人チームに加わった中村。「部員が自分一人でも、チームの戦力になれることを証明したかった」と、二回の初打席でバットを強振。チーム初安打となる右翼線三塁打を放った。

勝利に貢献した主軸は、ベンチで沸き立つ仲間に「仲の良いチームで野球ができることが幸せ」。大会前はテスト期間中で部活動ができなかったが、自宅で欠かさなかった素振りの成果を発揮した。

「逆転されるまでは洲崎で」。田口監督は先発させた背番号1を信じた。夏の大会では洲崎を下げた後、3点差をひっくり返され逆転負け。前回と同じく3点差に迫られたが、エースを続投させ追加点を与えなかった。

次戦に向けて中村は「緑丘の名前を背負って戦う」と言えば、エースも「次の試合も投打で活躍したい」と力を込めた。（大友瑞希）

室東翔 力負け

◇駒大苫14－0室東翔

【評】室東翔は力負けした。初回に1点を失うと、二、三回には大量点を奪われ、先発梶浦の力投は実らなかった。打線は無安打に抑えられていた五回、一死から五番吉田が右翼に運び一矢報いた。駒大苫は初回に白井が二塁打を放つなど10安打で14点を奪った。（野田篤志）

⑳…助っ人7人を加え出場した室東翔。伊藤俊介監督は「もっと点を取られて